



2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年7月30日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
 コード番号 9049 URL <https://www.keifuku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大塚 憲郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 長尾 拓昭
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 075-841-9385

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	3,114	0.9	436	15.9	432	18.0	285	1.1
2019年3月期第1四半期	3,087	5.9	376	14.2	366	13.9	282	32.7

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 313百万円 (1.4%) 2019年3月期第1四半期 308百万円 (18.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	143.57	
2019年3月期第1四半期	141.93	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	19,838	7,789	35.7
2019年3月期	20,120	7,520	34.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 7,079百万円 2019年3月期 6,837百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		20.00	20.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		0.00		20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,200	0.9	490	34.8	460	37.8	250	48.0	125.74
通期	12,500	0.8	820	11.0	760	12.9	640	8.4	321.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	2,000,000 株	2019年3月期	2,000,000 株
期末自己株式数	2020年3月期1Q	11,904 株	2019年3月期	11,811 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	1,988,096 株	2019年3月期1Q	1,988,204 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。
なお、業績予想に関する事項については3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで個人消費は持ち直し、企業収益は高い水準で推移しました。一方、通商問題など国際情勢による経済リスクは高まり、国内景気の動向も消費税対応など先行き不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループでは、インバウンド需要が引き続き堅調に推移するものの、課題であるバス・タクシーの慢性的な乗務員不足への対応は依然、厳しい状況にあります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は3,114百万円（前年同期比27百万円、0.9%増）となり、修繕費等の費用発生の遅れもあり、営業利益は436百万円（前年同期比59百万円、15.9%増）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は432百万円（前年同期比65百万円、18.0%増）となり、特別利益および特別損失ならびに法人税等を加減した親会社株主に帰属する四半期純利益は285百万円（前年同期比3百万円、1.1%増）となりました。

なお当社グループでは、2019年度から2023年度までの新たな中期経営計画「京福グループ中期経営計画2023」を策定しました。経営ビジョン「沿線深耕」を実現し、事業の安定かつ持続可能な成長を目指すべく、成長戦略「沿線拡大」とこれを支える安全・安心の強化、人材のさらなる活用などに、グループ一丸となって取り組んでまいります。

次に、セグメント別の状況をご報告いたします。

① 運輸業

鉄軌道事業におきまして、嵐山線では、堅調なインバウンド需要に加え、更なる需要の掘り起こしを行うため、2019年4月に高雄メトロと新たな観光連携協定を締結し、台湾現地で嵐電1日フリーきっぷに特典を付けた企画乗車券の発売を開始しました。また、嵐電・京都バス・阪急電鉄と共同で「令和」をテーマにスタンプラリーを実施するなど、京都洛西エリアへの誘客を図りました。なお、2019年4月1日より、ご利用のお客様への利便性を図るため、電車内で全国相互利用ICカードにチャージができるよう設備を改良しました。

バス運送事業におきまして、京都バス(株)では、岩倉北部・市原地域への均一運賃区間拡大、トラフィカ京カードへの参画、および北大路バスターミナルへの乗り入れ開始等の京都市交通局とのシームレス化を推進しました。京福バス(株)では、2018年の路線バスのダイヤ改正に引き続き、2019年4月1日に路線の整理を行い効率化を図りました。また、高速バスでは、2019年6月21日に名古屋線・東京線の運賃改定を実施する一方で、全車両にWi-Fi設備を整備しました。グループ内でのバスとタクシーの連携を強化し、引き続きお客さまの利便性の向上を図ってまいります。

以上の結果、運輸業の営業収益は2,038百万円（前年同期比38百万円、1.9%増）となり、営業利益は246百万円（前年同期比56百万円、29.4%増）となりました。

② 不動産業

不動産賃貸事業におきましては、沿線の定住人口の増加を目指した「らんでんすもすもプロジェクト」では、賃貸物件2棟のうち1棟については入居者が決まり居住を開始しています。「BOAT RACE（ボートレース） 三国」では、前年同様「モーニングレース」を開催するほか、他場レースの舟券の購入機会を増やすとともに、スマートフォン等への情報発信やキャンペーンなど積極的な販売活動を行いました。

不動産販売事業におきましては、「らんでんすもすもプロジェクト」の住宅販売事業として戸建分譲事業を開始し土地の仕入を進めています。

以上の結果、「BOAT RACE（ボートレース） 三国」での開催日数が前年同期と比べ減少したこともあり不動産業の営業収益は738百万円（前年同期比37百万円、4.8%減）となり、営業利益は174百万円（前年同期比19百万円、10.2%減）となりました。

③ レジャー・サービス業

物販業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」にて夏期恒例の「RANDEN EKI-BEER 2019」を開催し、「地産地消」をテーマに嵐電沿線の食材や調味料を使用したメニューを提供しています。

三国観光ホテルやホテル京福では、客室の稼働率やお客さま満足度の向上を図りました。

越前松島水族館では、開館60周年を迎え新設した、越前ガニやウナギなどの海の幸にふれられる「海の幸タッチコーナー」が好評を博すとともに、磯の生物観察や地引網体験など、多くの家族連れのお客さまに楽しんでいただいています。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は447百万円（前年同期比15百万円、3.6%増）となり、営業利益は13百万円（前年同期は9百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、受取手形及び売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ282百万円減少し、19,838百万円となりました。負債は、未払金の支払などにより、前連結会計年度末に比べ551百万円減少し、12,048百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ268百万円増加し、7,789百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月9日の「2019年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期(累計)および通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,028	1,301
受取手形及び売掛金	1,236	1,024
販売土地及び建物	77	73
商品及び製品	26	27
仕掛品	0	1
原材料及び貯蔵品	42	42
前払費用	37	50
その他	549	395
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	2,995	2,914
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,693	9,582
機械装置及び運搬具(純額)	1,463	1,373
土地	3,886	3,886
リース資産(純額)	840	832
建設仮勘定	21	102
その他(純額)	349	326
有形固定資産合計	16,254	16,103
無形固定資産	183	176
投資その他の資産		
投資有価証券	247	244
繰延税金資産	170	134
その他	277	274
貸倒引当金	△10	△9
投資その他の資産合計	685	643
固定資産合計	17,124	16,923
繰延資産		
社債発行費	1	0
繰延資産合計	1	0
資産合計	20,120	19,838

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	51	60
短期借入金	3,509	3,530
1年内償還予定の社債	45	45
リース債務	155	156
未払金	1,110	434
未払法人税等	274	83
未払消費税等	78	145
賞与引当金	216	91
その他	511	785
流動負債合計	5,953	5,334
固定負債		
社債	19	19
長期借入金	4,310	4,404
リース債務	735	721
長期未払金	345	322
繰延税金負債	622	642
役員退職慰労引当金	53	48
退職給付に係る負債	237	229
その他	322	326
固定負債合計	6,646	6,714
負債合計	12,599	12,048
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	291	292
利益剰余金	5,511	5,757
自己株式	△19	△19
株主資本合計	6,783	7,029
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	53	50
その他の包括利益累計額合計	53	50
非支配株主持分	683	709
純資産合計	7,520	7,789
負債純資産合計	20,120	19,838

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
営業収益	3,087	3,114
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	2,686	2,654
販売費及び一般管理費	24	24
営業費合計	2,711	2,678
営業利益	376	436
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	5
雑収入	9	8
営業外収益合計	14	14
営業外費用		
支払利息	12	12
社債発行費償却	0	0
貸倒引当金繰入額	10	—
雑支出	0	4
営業外費用合計	24	17
経常利益	366	432
特別利益		
補助金収入	—	26
固定資産売却益	89	—
受取保険金	15	—
特別利益合計	105	26
特別損失		
固定資産除却損	16	0
災害による損失	8	—
特別損失合計	25	0
税金等調整前四半期純利益	447	458
法人税、住民税及び事業税	120	85
法人税等調整額	20	56
法人税等合計	140	141
四半期純利益	306	316
非支配株主に帰属する四半期純利益	24	31
親会社株主に帰属する四半期純利益	282	285

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	306	316
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	△3
その他の包括利益合計	2	△3
四半期包括利益	308	313
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	284	282
非支配株主に係る四半期包括利益	24	31

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	1,994	727	365	3,087	—	3,087
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	4	48	66	119	△119	—
計	1,999	775	431	3,207	△119	3,087
セグメント利益又は損失(△)	190	194	△9	375	0	376

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	2,033	696	385	3,114	—	3,114
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	5	42	61	109	△109	—
計	2,038	738	447	3,224	△109	3,114
セグメント利益	246	174	13	435	1	436

(注) 1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。